



研修
レポート

左官を知ってもらうこと、 そして違いを見る目を養う

東京左官技能者育成協会 原田宗亮代表、久保 憲史 講師に聞く

東京左官技能者育成協会(略：東左育/原田宗亮代表)は、伝統の左官技術を継承し、次世代へと繋げることを目的に、平成26年に発足。東京の左官会社を中心に発足時は6社でスタートし、その後新たに2社が加わり、現在は8社で活動している。新人職人研修では現役職人の指導のもと1ヵ月間左官の基礎を学び、建築の基礎知識や職人として生きていく土台を心身共に身につけていく。また、同会が実施する職業訓練は普通職業訓練短期課程左官課として、東京都から正式に認定されている。

このほどコロナ禍で中止されていた新人職人研修が、4年ぶりに西谷工業(株)本社事業所(柳田竜幸社長)にて約1ヶ月間の日程で開催された。今年の新人職人研修には(有)原田左官工業所、吉村興業(株)、西谷工業(株)の3社から計11名が参加。新人職人が課題に向き合う様子をレポートするとともに、原田代表と講師の久保憲史さん(有久保技建)に新人職人研修の意義についてお話を伺った。
(編集部)



▲「まずは左官仕事の全体像を知ることによって将来の希望に繋げてほしい」と語る原田代表(右)と主任講師の久保さん

技術を身につける方法を覚えてもらう

——新人職人研修の意義についてどうお考えですか
原田：会社に入った子が、何も知らずに現場に行かされると、その現場や仕事、先輩が左官のすべてのように感じてしまう。仕事をしていく上で現場を選ぶことは出来ませんが、それでも左官に対しての視野が狭まってしまうのではないのでしょうか。そうすると左官という職業、会社、自分の未来に対して不安を感じるのは当然ですよ。いろいろな現場がありますが、例えば、その現場で自分が思うような仕事ができなくても、左官という仕事の広がり、様々な